中村俊定文庫
文庫 18
473

明時八幸卯歳

詠筆

松雲庵
写明

新くなる
豊葦原中和四の生

春興

梅ノ香や竹ノ方
千もゝの春も其
地なく

中村学園大学図書館
中村学園文庫
中村学園

春興

年の花や年をしらぬ地蔵尊　竿日

信中新稿の通

春

余は世に抜んで世と富と八聖を
欲しくはうらうら二合炭一俵多からんし
是うばるるなし

日を重ね　徐象かなりて年一抜　、　路子

歳旦

組頭
士農工商

士

殿　奥方

君ら春大級ふる――男女星　臺生
下賤子武家の形儀中和化粧　楚諧

家老　近習

人品も国の高ふる中迄速ぶら　花逕
有ぬいて殿も高ふる中ふ――光　石井

奉行

春行を先ず出し〻る和歌許　深夏

筆そし先大為　徳拝作を書　徐来

彼去　取次

口上も余り儀ふ出ぬ御答申　菊莊

書付申先筆出る玄冥性　笠明

小性　歩士

ゆ驚いむし〻筆や展蘇の酌　泉之

伺解よ言も、ちや和り彫　大年

局

うちゆも首撫　拍中著き〻先　梅夏

真名さく梅り数　つ〻ゆ〻の春　廿宇梅

鎗持　中間

大ゆ毛振ゆ中下ゆ先御代の春　穎之

下世数中先春ゆ　つ〻数き〻先　暑原

奪正　門番

奪ゆ先て獲尋む和うを　江右

給解しゆ能和ゆ〻ゆ御去　吳川

農

種蒔き　名古屋

嘗ては戸口もるらしの種蒔き　芝光

歳柳や弥生の空の霞ける

苗代　相模

苗代の手蓋ちまつり初暦　石井

こうまを朝の鄙の朝ぼらけ　像

蛙鳴

年年や蛙の柳も芽緑　宇曉

葉つゝ

幸つゝも世を忘れ顔の菜　弓雲

早苗売　田植

大響や内ゝ交ほゝゝ人出入　正吸

田植すと帰さ人多り多り　廿重市

田唄　青田

多摩川や田唄ゆ悦ゝ多ゝ者の　山青

印ゝ多ゝ田唄ゝ多ゝ者を多ゝ田多町　山雲

田茶碗　　燒茶

田茶碗と湯殿をしめの稽こうを　　大甲

多くの中燒茶信多と一もの　　吐泉

稽こうを　　茶一多

稽斉ふ人ち多豊中　　高天神ち　　井松

茶多中先為殖ち茶一ち　　百井

大根引　　麦蔚

稽引や大根引しる多も交ち　　多朝

高ち見ち慢ち　　春茶

祭工　　面ち

元日や大祭ち一ち細工茶　　多歌

切ち〻家蓮茶中蔚と蛯　　宝房

鎧沙　　狩師

菓蓋子　盛一紐多ち原もの　　亀石

弁ちめ中包井味て蓋の多　　徐舟

[illegible]

[illegible]

鞠師　筆造

[illegible]

玉磨　白粉師

[illegible]

[illegible]

画師　筆師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

炭焼　筆造

[illegible]

[illegible]

高

帖　　十秀盤

現金ハ帖合ヲ以テ高ヲ　玉柳
踏歩ヲ入ル筆ニ筆料理　清水

絵　　物語

江戸の事ハ多ク神田土一絵　春雨
蔵ハ一ツ多勢ハ福寿等　象明

茶杯　　拝

ちゃわんや茶ハ古代ハ矢箸形　梅明
負銅中分重ものハ遠ひ　市明

仕切　　為替

一ツ世の仕切ハ天ヲ印　茶屋
寺ハ五ツ年玉ハ一ツ為替ハ　春塘

秘箸　　金箸

黄銅ハ赤さ与ハ銭ハ青　春江
子ハ箸ハ筆ハ夢天象の春　澄水

春興　江都紅歌連

春を待つ色を梅が香　童牛
人かすみ笑へども梅が白い花　地蔵
たゞ安堵して余かまかる柳が花　花逕
笑ひ笑ひ賞ぶ程れかな梅が花　白井
蕾をよ帳ぶ箱ひらかしの夢　深魚
うぐひすや朱を今て京へ出る　徐来
よ公よ風流山中ぶれかな　茅庵
春や春乞仏の鉢の氣　芝明

梅ちくや探よ春雪く猫の泉　泉之
ちこしと姫筋を溶る雪解が　大来
詩も春も交ゝめ星や梅が花　宇梅
世ゝ春ゝちゝめゝ梅が花　桃糸
雪の弦低ゝよ撥ゝ雪口ゝ　籟之
日暮つ筏合川の柳が　蓼糸
陽炎よ巣を分むむ柳　この青　笠泉
地ゝ雪や氷船よ岸を定めゝ　江左
むゝ光ちゝや浮潮よ大の雪ゝ日　共竹

歳旦幸暮 茶夢眞　江都定速

春や一星出て咲しく江戸の人　鶴弘

春雨や池の水を梅雨ら——　柳孫

うぐひす や 三度の 初い 雇 ゝ も　文橋

夢 ま 孫 を 見 ま ま ま ま ま ま ま　嶺二

咲 き て い ま を 分 ま ま 柳 ま ま　殊来

梅 は し や 和 い ま ま の い 宝 ま ま ま　女 粉花

む ま は し ま 咲 ま ま ま ま の 夢　蓮唇

春 や ま ま ま ま も 花 の 中　少年 東路

羽 ま ま の ま も 遠 ま ま 中 松 ま 門　野香

世 ま ま ま や 世 い し ま 中 ま 梅 ま 春　丶

て 地 乃 中 に 嘘 を し——明 の 事　二暁

ま 解 千 田 ま 丶 湖 ま ま の 吉　至石

梅 は ま 中 那 川 ま 下 話 の 涼——吉　年礎

咲 ま ま 日 い 空 丶 行 柳 ま ま　玉魯

朝 (い 絵 地 ま 遠 ま 梅 ま 花　岬花

い ま ま 絵 中 絵 ま ま ま ま 一 木　成雲

楚 も 山 も は 丶 湯 ま ま ま も 日　子羽

福も寿もこもるや花のはる暦　連諾
はるの錦も紫て織るや年の市　〃
膝うらも日に気喰えて猫の恋　木童
御からや夢まて先へ咲か富士　烘香
降雪は早一と世か梅子哉　〃
指くまぬ舟引留る柳かの春　寄浦
うくひすや音に籠の鳥籠　花鏡
来鳴子所見えて梅見る春　両味
吹きては来るかあらし柳哉　梅竹

苗代や水のぬるみて加茂まで　茅居
さく桜に気のりてやる春の風　玉燕
さきくや波に音舎へ枯柳　南露
立帰りは花揮ふ年の坂　〃
梅咲くや田畑まつらに灰けの音　東楚
うらしと波に揺るる鐘月　千郷
見へも花や鳴く蛙も山の秋　其笛
さくや都へ若草の美し　三市
乃ひしてうるに押し柳哉　己往

行く人の笠の梅の花　乾坤
ちられふに夏て行く春　義峰

雪や鶯を笠の上の所　松香
杉へ雲て鶯と名の下鶯　大鶯
鶯の目を見も洗ふの名残　洗嶺
雲雀や雲ほと伸て風を吉　喜多

玉松義遠

鶯の夢
解く

徒車を曳きあたる江戸の春　伯如
岩角をまろ老して雪解水　玉竹
鶯の名の雲あい屋敷雲の春　笠子
高麗人もおうる音畫中初の出　素甫

地ろの国の花よ山雪原　玉峰
駒市の煙よりや梅九ろ時　玉蟾

古鄙花安連

雪梯や珍らしき花市稽　富人
雪や雪解ふ毎の新法分　珍之

年のくれより春の景色中唐衣　蓑笠

春の終の春よめてやすらふ　十九

雲間にて雲を霞ふる猫の恋　嘯風

樣しら戸出格の緑かな遠　柳糸

武蔵

代るし整しを笠　椿　この方　青楊

下ろす直口一朝　梅　恋　百升

三の尾の節ふる胡蝶　鶴

金しの多を出出　多この多　生光

武蔵野より日に弱ふる春の雨　宇曉

笠乃下の国より降ふる梅の香　桃子

お寄る陸ふる鶯　柳　み　和紅

紡ふるのもふる胡蝶　けふる

滝壺へ笠ふる花の降ふる　金稲

又ふるも多く一羽　天市

ふるふると土格に至て鶯の声　防雨

ほろほろと笠ふる春　五英

吹ふる二本の柳　市井

湖しと海と異なる一いろ哉　小春
波を岸や野辺や他の紅雲の中　徐風
夕べつゝを奥へ〳〵入る事　夏篁
雲九頭の吟出る和哉　東郊
新月の明せて却て雁り　石塔
梅ゝ香や風の吹見る事　秋戸井
青柳や青白色の糸なる枝　富蔵
雪解や雲ゝゝゝの風力金　屋石
入おをすゝも世界よい雲雀哉　一瓜

青の義こゝら椿の花哉　大甲
幼蕾て後よ花や中梅ゝ花　廿三市
ゝゝゝと新しく義中稽素菜　象吉
餅つき中猶し新の十蕾象
青柳や湖青て青ゝゝめ　平居
花の中に蕾い鶴ゝ一梅ゝ花　麦二
竹の蕾を幹よ多の毛中梅の京　路平
青色の山青ゝ行雪解こゝ　老鶯
青て見れば烟よ色一梅の蕾　一雪

雲井うら山へ海ちかく宿の家　一路
かつと鳴く鶯の目嘴――苔搗　大蔦
新うるは陸奥の出――かたてや　素堂
のつきうしろ高の柳うす　義平

安永田連

芝居中業成えさるの中　和詮
松安しや出うらいかるはく井筒　文卿
芝新中夏祭山のまあうら　汀鶴

松はしや力を入るる餅きり拍　二鶴
日出うらい高苔と松力高　松屋
岩しよ摩風清あるの新や　如矢
芝新中麦子きたこうはるる　為篠
麻雨を地直苔ゆ柳うす　仙舎
松うるや赤色吹多れ松色松　湖光
むさうるや高ひこうへ――の中ゆ　桃井
日一数雨ものうしく柳この車　篁井
松はしや竹ゆうるうるうる　桔梅

[illegible] 桂林
[illegible] 孫市
[illegible] 名生
[illegible]

一二 梅の花

[illegible] 箕田代連

[illegible] 梅川 [illegible]
[illegible] 川田善 [illegible]
[illegible] 其流

[illegible] 東坡
[illegible] 三志
[illegible] 竹輪 代る人を [illegible] 生夕
[illegible] 古柳
[illegible] 荷之

太梅川連

[illegible] 雪稿 素人
[illegible] 山吉
[illegible] 山吉

世間を達観人はいかゝ
きの夢覚りの年の真
きの郷や風よりて歌
うくの宮や鶴なる沼の鏡
わうの宮や秋なる風を持ち
下總

吟ぶきて原を求めや柳ヶ
一羽ゝ雪うて定る雪雀
目にもうる陸の影鶴の絵

房州
其山
高橋
平仙
西條
箕明
松平
勇山本
風池
百井
写朝

云ふ宮や五ゝ恋ゝ恋ゝ
思もとる夫のちゝ山や幸の市
ゝ
ゝ雲風や旭をふる恨一ゝに
ゝ家
ゝ絵や義を出ゝ一羽
ゝ
むぐゝ山や世第者の真実
ゝ
ゝの中に云ふ春ゝ年の重
ゝ
枝ゝ雪や句を分て園の中
ゝ
むぐのあゝ笠ゝの枝や蛍ゝ
ゝ
笠竹や移て隙ゝ保の名

新
總洲
名生
松笠
吉俊

[illegible]の[illegible]の[illegible]や[illegible]は[illegible]、
[illegible]や相[illegible]より[illegible]の[illegible]こつら　市芝
もちつゝや[illegible]より[illegible]
[illegible]と[illegible]こつら[illegible]花　名山
[illegible]を[illegible]の人や[illegible]、
[illegible]こと[illegible]や相[illegible]花　弥彦
[illegible]のこちら[illegible]やー、
てかゝや世界[illegible]の[illegible]　松浜
[illegible]より[illegible]相[illegible]ー眞めや、

[illegible]人の[illegible]より[illegible]出[illegible]や　茨城
[illegible]のー年[illegible]、
[illegible]の[illegible]より[illegible]や相[illegible]　吉井
大[illegible]も[illegible]出[illegible]の市、
[illegible]や[illegible]の眞　仙臺
[illegible]力[illegible]も八[illegible]や[illegible]、
川[illegible]を[illegible]より柳[illegible]の[illegible]　川崎
一[illegible]の[illegible]の眞や市[illegible]、
余[illegible]を[illegible]より[illegible]雲[illegible]　石巻

豆まきや日一きしく声の数　〃
續き人もゆかし記いこのまつり　松笠
誂の猪常度能むしの市　〃
気ふあや清らかき小松原　楓川
ちよみくりや鶯も来なく年並ぬ　〃
曲水や手に觴ふくにはいもの　逸来
蠟燭に良い破のて年のくれ　〃
筏士の流れ流るに雪解かな　荘鱒
青柳や風を上手に育ちけり　麗色

ちるこかちは風情見え、初桜かな　泰舟

右鏡子江市石庭連

見ほりと寄せ静し春の海　多歌
壊を鶯に背折る雲雀かな　一子巖
手練に人筋は甘る蛙の声　諸留
大木に来つゝ折る柳かな　業花

右須賀寛堂樓連

てふてふや花の香雲に森出生　象石
梅か香や人目の窓の中を来る　徐舟

雲をあらはす雲霧こそ　少年　眉天
むかしの夢や旭かな屋しく所うら　青羽
海苔取やこまよりかなしき　雨塵

石雲我孫連

うぶ毛をつまらせて初こうこそ　古彩
憐しやうぶ吹きてもいとをしき　素紅
よ弦をねらひ吹うらむ春の風　遠英

太子塔を川連

待る院よ旭さらやの春の　湖て

うさしとあらしうらうらう年かうら　丶
ちんかうと青海原や初日の影　大虚
古京めかるよ一枝や年の梅　丶
梅うぶやかのもく義小外大うら　寿一

南総

青柳中人よ信濃めぶ山の翠　雨林
心うぶ度をけ新て柳うぶ　林子
梅うぶや冥歩る家も真ゆらし　雀江
うぶのもや青青うぶ思ひれば　玉梅

杉はらの中陰る地
入船を風の坪
さゝやかなるうらしゝ
　　右国能工詩庵連

とゝのふる目いさゝ
笠出の田毎の
出る月中に
苗代や
　　右東金西時亭連

雪深
文机
まのあ
月影
十雲
清市
五雲

うつ
　　右西條杉地庵連

出ぬ
橋の
うつ
　　右富田連

うつ
　　右東寿山下連

松の花
淵川
雪の
柳の
年の市
素仙
雲
花夕

嗜みこの海苔を拾ひや音の物　林翠
梅ほころや雪ハ跡とゝまらず　〃
嗜みこゝや加茂と時ひらく　木魚
むさゝゝや小鮒ハ紀ノ国ひ　〃
嗜ほゝや富士の時雨ゝ　江魚
梅ゝ雪や梅樹より雪ゝ物ゝ　〃
嗜つゝや海苔を先鶴のゝゝ鮒　石花
むめゝ雪や寄風ゝ先の鶴ゝ　〃
嗜みゝや毛無ゝ物ゝ先ゝゝ　重舞

梅ゝ雪や新物の国も南　〃
嗜つゝや口きれぬ紙の置　所古
むめゝ雪や海人ゝ房ゝ長ゝの　〃
嗜みゝや毛元ゝ房ゝ三度　山輕
出ゝゝゝ雪ゝ雪ゝ梅ゝ　〃
嗜つゝや山ゝ海ゝの拾ひもの　思笛
梅ゝ雪や笑ゝ水ゝ言　〃
嗜ほゝや雪ゝゝゝゝ山ゝ　宴口
むめゝ雪や寄ゝ籠業の印仮　〃

[illegible] 雨月

[illegible] 木の上 物松

[illegible] 志保

[illegible] 梅志

[illegible] 湖月

[illegible] 卯月

[illegible] 多戒

[illegible] 野毎

[illegible] 松 茶坡

[illegible] 柳秀

[illegible] 止嶮

[illegible] 至源

[illegible] 多保

[illegible] 春堀

[illegible] 為東

苗代やゑらみやあるきかたな　梅友

杉苗の影をおとすや雉子の声　戸蘭

あたゝかさや雨風きゝし桃の花　百亀

西国田穂雲楼連

三春を雛とちらす霞かな　玉河

埋くぬれて弱矢のゆるむ柳かな　若路

一すしの光あやし鶯かな　漾々

春雨や芽をもちかくる雨もあり　青雨

むれはし畦を立てなれて蒋雲雀　梅偉

花開きやまくれ穂垣子の花　雨桂

雉子啼やきのふより在住寺　梅明

本所菊川香雪庵連

梅らしや待蒔草一つまとめて紅　洞蝶

細伴ものの花をちらす柳かな　川梅

むさしの雲や春吹く日は遠し　香醉

田こつ一ツ枝を立てる田螺かな　竹五

何艘も霞ぬる舟やおぼろ月　林舎

本国田湘翠亭連

苗代や十日ぶりの水加減　多語

押あふて蛙子生ちりて柳かな　悉明

東小松原社中連

舞て来て芝生敷ける胡蝶かな　春江

雨多經て四十八瀬や猫の恋　竹堂

春しと風に流るる柳かな　鳥楼

春気の花に這入蛙かな　白咲

菜の花やものの節す風にもつかれつつ　絹晴

雛子峰や鶯の声顔に呼ひ　濃多

若草野を活けて家ある牡丹かな　野文

右巳椽二之宮連

嵐山にいま色し春の花や　二酉

四手解ゆ諸をこしと相花活る空　白羊

右志羽根連

之室の花も秋にて玄多かな　吟雲

烟者や旭子春を影活かな　松涛

右新大小晴連

芳藤一つ中にちりて胡蝶かな　多語

[illegible]や出[illegible]帳入帳の時津風　紫雲
移ちはしと淀乃橋や梅乃花　朱宰
帳抑ろーの行先朱雀　冊人
[illegible]や土[illegible]ろ新る[illegible]乃[illegible]　ら楽
[illegible]御や[illegible]あ御[illegible]乃ろ　太環

太夫職酔三家連

[illegible]や之[illegible]の伸ちゝみ　帝川
[illegible]乃[illegible]る御や　市楽

太夫山寿連

[illegible]生
晴いは行[illegible]乃うれ[illegible]猪乃[illegible]　春路
[illegible]の[illegible]や[illegible]一本の[illegible]工もの　家菊
山しの脚ろいはち[illegible]雪解や　[illegible]
梅[illegible]や戸はーと冥[illegible]て[illegible]　夷川
[illegible]のを過ろ[illegible]雲雀や　素秋
て[illegible]む[illegible]定ろ[illegible]ち[illegible]　朱路
ちゝ[illegible]し毎の紅[illegible]　[illegible]帆
[illegible]や加の現く[illegible]の中　酔醉

吟めかい〻雪を雲しらす梅の花　雪郎
余遠の中繰らす〻中〻拾樺　吉国
梅由よ春出ちの志一種は　山茶
ろろ〻ちよ雪恋よ一刻の春　雨雪
元山の雪一度一瓜を雪解外　雪月
ち移中　独板よ雪を刻む雪　機外
余中の中移る分ら雪る弥の山　蕪菊
茅の花中寂る　蔵主を蕪きる　船歩
ちち玉中烟よ　地の春いろい　茅窮

猫の恋〻余もの影中山ちくら　李山
多猫〻猫を多〻を猫〻の多　愛錦
雪〻中猫を雪〻　猫ちく〻を　玄泉
雪面中猫よ　鼠よ鼠る春る親　野孝
雪雪の志　雪雪　雪雪　吐玉
縦よを保を雪雪雪〻雪〻雪　梅志
山沢の鼠茅面よ雪解〻の雪　如月
余〻の目を〻地一猫の玄　如年

二月廿日中梅も咲一番乗
八しかれい磯別や咲一の俳
まちまちて梅いあやなし一年の間
野の中かれる紅連や年の垂
下戸もちろ酒ろ中年ワ垂
葉くはの皆も白妙み年の垂
葉ケ嶽い垂ろ垂て年の旅
紅ちろ垂ろ戸いなして年ワ垂
元船い磯地ろ一て咲一番乗

宗祇
素堂
夷川
素秋
茶酒
呉帆
蹴雄
夢郎
古月

ろちを宮橋もちしし年の冥
押宮ろ乗乗咲中年の市
蓮華の姫もち八重一咲の板
猪もを寄八磯一ち年ワれ
垂重い寄ち一咲中年の板
万葉咲を行ろ人や咲一の板
八人を乗ろの蓮中年ワ垂
ろろほのものり花ろ力れ
花咲ぬ芋稲を撫ち年本撫

山茶
姫麦
野月
磯州
蓮嘴
紅歩
冥舗
菱潟
春山

[illegible]目[illegible]近――[illegible]年の板　春泉
[illegible]の第一[illegible]の[illegible]也　[illegible]
[illegible]の[illegible]年の[illegible]　吐玉
[illegible]の[illegible]と[illegible]――[illegible]年[illegible]　梅志
[illegible]年[illegible]　如舟
[illegible]年[illegible]　[illegible]

右結自一笑園連

約[illegible]――[illegible]も[illegible]　[illegible]
十[illegible]の[illegible]――[illegible]十[illegible]　、

[illegible]東風乃[illegible]――[illegible]の解　鯨之
[illegible]て[illegible]の[illegible]年[illegible]　、
[illegible]中[illegible]　麦浪
[illegible]も[illegible]年の市　、
[illegible]と[illegible]門[illegible]　弦山
[illegible]の[illegible]年の[illegible]　、
[illegible]――[illegible]年[illegible]　秋　、
[illegible]中[illegible]　硯齋

右結自一笑園連

元年八月九日船弾正

梅の香を知る人の解よりも　半峰
梅の香を知る人の解よりも　茶峰
梅の香に紛ひし京の名　南仙

太宰府紅梅会連

梅ゝの名を名のる木乃香が　李酔
昔代や春の日の影を見るに　日子
さし寄や野辺まゝの雲の中なから　亭々
第八や古宮の雅の人乃数　々山

太宰紅梅会連

えゝや人ちらしと吹ける　麦枝
枝ゝ春を待て年の市　〃
咲ましらるゝ梅の香　柳巷
蝶ちるや土塀もゆゝ仮御殿　〃
歩ら路の雲よりの入る春の雪　布山

太師田連

廣庵へぬるぬる影の柳の春　々路
梅ゝ春や用ちる門の路庭　年奇
十梅や梅ゝ梅ゝ梅のめくる　一々

見はらす所に動かぬ纜月　官狐

太白井吟居連

峯一羽空乃かはのや日乃頃　洋雅

青柳やみどりしもそよぎに引く本ゝ

上枷乃胃湖のや日の左し笠　酔雪

ゆくゝゝ子降ものゝ使る柳かゝ

志らめ子傍き空や日乃頃　鳥丈

吹散る藻子さゝる柳ゝの李ゝ

門くしの松子艶出る郊白乃出　卜二

結構ゝ家を去らむ柳かゝ　花遊

高しとおもとの宝や日のさし笠

吹風ゞ跡ゝ楽しく柳ゝの李ゝ

太之白井連

あらはいちの橋行雲筆ゝの李　累多

何れおともなれぬも楽しゝ宝の雨　五花

太横塩連

先爲ふも乃ゝ見郊や臙脂草　揉名

わらう李風と遊ぶや風中ゝ　如嶌

雪をうれたる世間や　あの雪　井花

初尾花　あの山ちかう　雪解　多

きしと鳴る門や　門の内　素頭

雪や　あるの法つく　井の中

ちつ鶏や　物しらぬ　戸の内　居不

うくいすや　地　雪の解て　茶

初夢や　都の門　より　杉の風　此日

雪や　鉢　ちも　ちに　松を　

口と　ちる　雪　ちめり　稲寿　茶　　桂日　焼外

世も山も　ちう　ちう　雪解　この　

初　ち　笠　ち　年　を　ちう　ちう　　京外　其山

雪や　ちも　ちし　ち　ち　ち　ち　

笠　ち　笠　京　ちう　ち　年　男方　　山王宮門山岸　牡丹

杉　ち　ち　ち　ちの　世　ちう　年　の　ち　雅

ト　ケ　鶏　ち　風　ち　桜　外　　世方日　深日

年　の　世　雪　て　清　ち　や　山岸　の　杉

雪　ち　ち　雪　ち　し　清　ち　柳　外　　東京　東泉

ち　雪　い　ち　ち　ぬ　雪　ち　年　の　桜

金力ちる筆尺外しらう落葉外　口世文物

年の際や雪氣まよひ——ち、　口時雨

角くぼや雪雪よ篇心家くあ

篇の戸のちらぬまちる年のち、　口

具金を筆よ尺をくこ屋蘇の寺　豊江

川墨て情のちちの中年の芳、　口

篇ちよ命一を屋蘇の篇ちが　口　が抗

蘇ち篇へ芝一里し半——の板、　箕物

屋蘇ほちあ世の影や杉の中　樹赤

三芝ちよ舟ちを舟ちを舟ちを、

ちち屋都へちもも杉ち中　宇都宮山之

て芝筆をちち柳が　言崎、

てちちち中ちよ鼓ち鶴筆　言陵

人弥ち長ち餅雪ち鶴走外、

芝ちち中相のち牛の情ちち　芝山

太言芳玉五寅連

僧、のち生をちち——ち明　白雲

紳中の杉ちしちち篇外、

[illegible]

山路

、

望月

、

五玉

、

書蕉

、

雲母

[illegible]

、

茅居

、

松嵐

、

扇山

、

沙弓

、

[illegible] 雨竹

[illegible] 涼

[illegible] 笠川

[illegible] 二

[illegible] 雨竹

[illegible]

[illegible] 雨湖

[illegible] 赤磯

[illegible]

[illegible] 緑雨

[illegible] 少路子

[illegible] 三巴

[illegible] 戸柳

[illegible]

[illegible]の中方岐明石　別名　西夢

[illegible]よ　稀なる樹　一つ寺　陸奥

うらうらや　[illegible]の引　宝儿

折[illegible]の枝　柳　一つ寺　吾妻　金井

枝　[illegible]　[illegible]　文政

うらうらや　[illegible]の寺　朱絃

[illegible]代や山も　[illegible]川の松　三嶽　[illegible]仙

春の[illegible]や　[illegible]の土の[illegible]

信濃

[illegible]男何以　一中　[illegible]つ　路国

はくしし　春　[illegible]

陽[illegible]や　南面　[illegible]のまらもと　蓋心

[illegible]　[illegible]　[illegible]　路芳

[illegible]の　苔　[illegible]雲解

[illegible]の　中　[illegible]　[illegible]　折戸　[illegible]

[illegible]しやうり　[illegible]の[illegible]　古ムル

[illegible]や　[illegible]　[illegible]　雲踊

[illegible]の[illegible]や　[illegible]を除く　[illegible]　文長

古矢付の嶺氣連

梅ゝ雪や筆屋の鐘　一瓜　紫雨

空ゝ鳥ゝ雪ゝ一森雲雀　柴尾

牡丹の花鐘よ日の入まで　〃

雪ゝ雪ゝ山ゝ雲ゝ雲ゝ雲ゝ　望夢

雪の先猟車よ和吉外　紛雀

鐘一本み鏈ゝ年の雪　〃

むせゝ雪や乳母時て乳取　東戸

涼しい一雲も金ゝ年の市　〃

山雪や雲ゝ雲の太刀　羽雪

鐘ゝ雪や去ゝ去ゝ抜ゝ立ゝ一　〃

印東風や海ゆゝしと吹ゝ雪ゝ　古鶴

鶴ゝ雪や山ゝ弾の金所　〃

雪ゝ雪から信入ゝ弾の春　簑雨

去ゝし去ゝと鶴ていつゝ胡椒外　〃

梅ゝ雪や宿雪ゝ雪ゝ鶴ゝ雪　紫二

雪ゝ雪を出一や年のゝ　〃

嚏去ゝとゝゝゝゝゝ　素月

元日や松風聴く里はなし　春雨

若菜清むやうちまかせて細流れ　〃

咲かゝる雨や新らしの座さ風を結　素風

葉の翠ある人を体りけり　〃

云合や積清く雪へ古着来かけり　雨足

明星をうつして流や雨かな　新 松陰

青柳や立かゝる伸き波の影　〃

梅かゝや菓子屋以て新き二の　真可

世しのまゝ一枝梅乃匂ひかな　〃

白梅子さ花かほるし　若竹　乙牧

是ちや一番出かゝの埃しらし　〃

有名倉十竹恵連

竹も木も薹くものぞ福寿草　中邑 鳥洲

陽炎や鏡うつる老はれ　九折

絹ぬ帰や跡へつらら波乃後をまる　遊一

星うつや嵐ほのめく〳〵ある松　〃

舟車や草新らしく雨かな　諸十

青柳や吉かゝし多分の岩さしら　〃

鶯のこゑならし一はや明る春
徳島 指山
萬松を契うしく霞ゝの春
八黒
けふ菜やけふも賑はふをまつらや
松尾 魯本
神慮や齢をのばす若え哉
七種に余所れて咲きつまなゝの春
侍文
青しの目をまつそて柳かな
明そろ頭圓に帰るそ道の春
稲荷山 君式
ものゝ初出へ露めく近し年ひとつ
錦納寺 之思
万歳や柱の春をうつくし

誰出て若菜も来る様一の春
若井や手入まもり此下もあり
別所 星磨
鶯の殺入て一声しら年の川
世間さや露も山に歯白
清水叔 一氣
けふる今岩ばれけふ柳一の春
楳月
万歳や般若旭に顔ゆつし
秋 箕山
なくしとまくしと宝の口の年外
もの宝やゆかしくと鶴か一つかな
玉泉

春雨や清やし漂し蝶喋 、 古篇

薪苅て道も戻りし跡の春 少年 嘉江 、

かきろうや洗濯水のにしきさ下 秋 茨古

おもてへ籬の作りる家計 、 九首

梅咲て垣根に枝をつきぬりう 竹舟

ちらしと杉を包も雲落計 十紗

てらしたの譯も起き初まるなる 素洲

菜や外の都に半たし免

初そらやちる草しと鶴のうき

七種や七草はやし作りし 、

太い俊連

陽炎や畳めを捨しあるま 楚川

もまきいろは花に之とちも野梅計 雲暎

樓の末まりるし挑かけ日 路風

ときさに継札ねり隣もさし 、

氷外の末へ庭奥安鐘月 珎陸

春風や吹つかしる東山 李舟

堰乃みるもと小楠やわらかさ 斤蒸

[illegible]　　曉羽
[illegible]　　孤舟
[illegible]　　重庵
[illegible]　　簑風
[illegible]　　廿三日
[illegible]　　自泉
[illegible]　　左丈

東武代徐柳菴連

[illegible]　　梧菴

[illegible]　　芭風
[illegible]　　立圃
[illegible]　　
[illegible]　　麦邑
[illegible]　　
[illegible]　　路男
[illegible]　　
[illegible]　　自来

[illegible]年の冬、
[illegible]野梅や　隨和

[illegible]所遠

[illegible]一[illegible]梅の丈　暉江
[illegible]紫竹[illegible]根竹や、
[illegible]春雨
[illegible]八十
[illegible]柳[illegible]　斗塘
出[illegible]や遠寺の[illegible]　風伍

[illegible]所[illegible]
[illegible]の[illegible]風や、
[illegible]入る[illegible]　風條

[illegible]遠

[illegible]風や松[illegible]魚[illegible]　[illegible]の[illegible]
梅賞何を入[illegible]　其角
[illegible]と鶉の映し[illegible]　其物
松賀[illegible]の[illegible]
[illegible]野[illegible]の[illegible]　東水

はくうちはてちる　嵐　力柳　、　軍　　杉味

ぬきの絵　―　笠　力　ちる　ちる　絵　ヤ　　女　不自

力る人力　むら　―　詩　ヤ　　笠　夢　の　集　　、　所　力

笠　の　歌　縁　力　寝　と　この　ちより　　、　松　所

二　ふ　度　ま　ち　移　越　ふ　―　ふ　ち　ヤ　　冬　月

古日所　投　竜　就
秋　臺　亭　連

春　ひ　ち　ち　士　橋　力　ち　ち　ヤ　ち　ち　　麦　語

縁　ち　ち　ヤ　活　ち　ち　度　ち　橋　ち　ち　　、

橋　杭　を　ひ　ち　ち　ち　　桂　、　ち　ち　　俳　雲

笠　宗　ヤ　ろ　は　―　ち　ち　の　作　換　ち　　真　雲

ち　ち　の　ヤ　藤　柳　ま　ち　笑　ち　ヤ　　、

古日所　鶴　有　ち　連

上田

ち　宮　ち　ヤ　ひ　ち　し　ち　―　波　力　浦　　如　毛

この　ち　笹　ち　殺　出　―　ち　ち　縁　ち　ち　　、

ち　柳　ヤ　柳　し　ち　ち　と　拾　撑　　雲　帯

縁　ロ　ま　ち　ふ　ち　絵　都　ヤ　ち　縁　ち　　、

春　風　ヤ　ロ　焼　演　を　通　ち　ち　　香　常

椿さくや[illegible]揚障子　栄嗣

まださむや干瓢の縄を[illegible]　、

[illegible]雛や[illegible]嫩[illegible]　志仙

春雨や二葉は蕗に[illegible]　、

苗代に流れ入る田のしもけり　林之

[illegible]や植生一本[illegible]　非之

[illegible]蝶を[illegible]　、

[illegible]蓑着て[illegible]　斗石

試に先一副の[illegible]　釈 玉臺

[illegible]七草伽藍[illegible]　麦因

空[illegible]春の雨　在十

[illegible]夜子[illegible]年の空　、

春

桜の前桜の[illegible]雲居　麦二

[illegible]生[illegible]　字吉

陽炎や[illegible]足　少年 玉可

[illegible]や[illegible]枯梢の[illegible]　、　路左

[illegible]囲炉裏[illegible]　、　眉英

かけつくる風の館や柳かな　　孫嵐
為九葉涙かなしき白螺かな　　同所 烏秋
土筆を摘て不分るかな　　蛍井

西ノ宮梯中庵連

白魚や藻のくゝりを萎かな　　雨石
ころ紅やちるく蜂か窓を落し　　、
春の風吹縄の襷白き乃り　　青洲
新雪川や緑子俤にお母をあま　　、
義入や潔し川の名をつけて　　重叔

てうしや石をめぐりて翁て行　　菫石
ひうなやをいひつきても空の光　　同年 杉絮
若菖やうなし藤の下折りけ　　真井
艸苗や春うき柳かな　　不改

西ノ宮許画無連

苗代や芳き川の声の音　　紫宇
土筆や乞ふし菜の名を葉る　　柳堵
白碧のふき緑見申雪解かな　　俵石

西ノ宮酢亭連

[illegible]

[illegible]

[illegible]

桜樹ハ枝ヲ垂テ幸ヲ送ル

春の和歌ヲ詠ス　廿　和月

雪ヲ分テ来ル人ヨ春ノ市　銀子

ゆらゆらと揺る柳哉　花の春

来ル春ヲ待ル中ヨリ春の市　白猿

仏ヲ背ス家ハ花の春

梁笠を夢の枕や　京

うつゝなの梅ヲ探しと花の春　柏舎

益ス心ヲ中ニ幸ワレ

多知ハ中和歌ヲ中門和去　文林

酔ヲ分テ夜ヲ徹ス　京

何ヲ見ル加ヲ見ル花の春　羽平望

梅の蕾ヲ人ハ　巧子望

咲ル中春ヲ春ヲ車井戸　其石

梅ヲ門ト生ル春ヲ　

石蕗ヲ井ニ春遅

ゆヲ分ヲ石ヲ見ヲ柳　望月　ヒヲ戸

日ヲ春ヲ春ヲ指ヲ京　雲丁

下つき

くくりつけ時よい出り上　日光　簾玉

七種の野いく春の雪ちらし　野路村

春の河

春の雨さくらさき　長崎　名笠

仲勢

西行風ちらす柳　うの子　金鈴

加賀笠のしたも自分の柳　花　金吹

うくひす人引出す義の方　陰義及　日園

柳ちり果合走る　桔梗

墨ちる暮る春　柳　この子

もえ出る春の野　つくしの子

松ちる春　星を　ちれば　石の塔

もえ出る春　生る　目の形　塚の子

うつくしき宮へ　陣形　赤ちり外

出る下や　の　海ちる　海の子

長口を　知ちる　ちれも　ちめ　柳　外

柳　生く　桃　ぬ　海ちる　見　外

西湖　桔梗

柳思　翠渓

名茂

牛角

晴房

五葉

蒔秀

名測

[illegible]

[illegible]

[illegible]

海辺より雪国へ入て　羅月

出羽

野く澄る雲も歩くし　萩の日　羽屋

さもかなく

市人や歩くられ酒をかさす　烏黒

樵くし中地の酒うへ　蓑外

市くらと水解りて　樵わ子　醉石

山ハさる雲より光る中　初雪ろ月　魯笠

花の雪のくれ沈中　羅月　柳英

吟されよし吉井ろもと萩この手　柳美

雪の鶯古くらぬを井の中　世寒

大坂

くらくら中平を堤　子舟の縄　蘭坡

ハ寒を寒ろ——ふる寒ハ　石嶽

和り鶯ま吉中陽　樵の杖の上　寸子

京都

梅ま屋の寒詩ろる接ま　夢寒

吟きてハ樹を逆て柳この手　子風

通

京都　雪夢

[illegible]　詠九

[illegible]門の柳哉　又下

[illegible]　江都　文尺

[illegible]　佛嶽　源吉

[illegible]　詠中　卜市

[illegible]　眞元　紅葉

梅の香や内待を[illegible]中長屋下

[illegible]　使至　吟山

[illegible]　雪海　世羽

梅の香や[illegible]子のうちい阿蘭迄

梅の香や中高橋領の[illegible]の味

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　いせ　[illegible]

[illegible]　大坂　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　江都　[illegible]

[illegible]　詠後　一[illegible]

納涼中の景の先し梅乃花

梅伝しを中郎より郵物を家刊しを

長門より風の出遠入柳を

走山より除乃たを

乃乃第中人乃作乃く雲芬

芬芬中郎乃の景く重一のを

梅ゥ第中枝の高戸より影刊を

聖の乃ゥ乃乃を中繞井

郎より時中郎川の水碎を八ゥ

仕部 芳華

子文

緑系

常陸 高石

釈 茅蔓

村山 梶破

仙元

四元 石牙

沼田 東坡

咲て乃乃景高乃ハる——梅の花

安乃の高い——かし——高の花

地乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

四——高の郎より梅ゥ中ゥ乃乃

志の自より考を笑乃中風中

陽第中土陽乃乃乃の上

一見より梅を乃の中梅の花

千乃乃もの乃乃高乃柳、高

津幡 見風

加賀 ゆ中

五井

茅伯 志摩

久居 梶渓

紀州 雪沼

乃也 世之

八楚

竹士の間の[illegible]柳二[illegible]　再諜

[illegible]中船の紙[illegible]岸上[illegible]　[illegible]

[illegible]の二[illegible]間[illegible]紙也[illegible]　五渡

[illegible]中一度[illegible]小野[illegible]　橋下

[illegible]の紙[illegible]出[illegible]日　生渡

、

精[illegible]て時[illegible]也[illegible]　[illegible]

時[illegible]舟[illegible]柳[illegible]　文河

[illegible]よ[illegible]間[illegible]　乙河

七種中秋の時[illegible]物語　矣文

書風中[illegible]也[illegible]中　右麦

所[illegible]瀧[illegible]柳[illegible]　蓬新

、

[illegible]と時[illegible]柳[illegible]　大麦

[illegible]中[illegible]柳[illegible]　豊河

、

[illegible]中[illegible]　[illegible]

[illegible]一の神[illegible]　門意

[illegible]の[illegible]　[illegible]仏

紙屋中人に見くびり物〳〵出　天立
笠の笠を傘なくば雖雨　敲歩

、

爰〳〵茶を飲く柳とちるまち　石明
書中物も喰ふまぢ書言―　字石
物捨て身の物戸書の所　紫居

茶書組歌

蝶掃

蝶とんを中御結所も書の中　童牛
一日の納新米ちくちく　楚語

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

一[illegible]世い[illegible]力浮世を蜉[illegible]　百丹

餘[illegible]

餘つ[illegible]や形[illegible]と　深魚

もち[illegible]や蓬の[illegible]も[illegible]五年　徐来

餘[illegible]の[illegible]の[illegible]時　菊在

[illegible]つ[illegible]や燈火[illegible]もの[illegible]先　生明

[illegible]は

年し[illegible]歌[illegible]師[illegible]は　[illegible]之

さハ[illegible]は[illegible]中[illegible]師[illegible]は　大来

世[illegible]のかく[illegible]出[illegible]り　樞[illegible]

世を[illegible]編[illegible]て[illegible]師[illegible]は　宇梅

餘花

餘花や[illegible]せり年の[illegible]　竹[illegible]之

もち花や火燈の山[illegible]孫先　暮亦

餘[illegible]中[illegible][illegible]峡[illegible]　江在

もち[illegible]や[illegible]柳[illegible]　[illegible]

年本[illegible]

[illegible]

山高も[illegible]

雲[illegible]の中に[illegible]

[illegible]

[illegible]　夢楼

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

古暦

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　

千年より家を繁し京都より

門松賣　　宮朝

松賣や除山乃風を拾ふ　　雪歌

まつ賣やさゝ髮めでゝ根ぬし　　宮房

松賣や弁賣さゝめ踏みたて　　兎石

まつ賣や人をまゝ除ふる　　徐舟

大晦日

暮るゝより暮い暮るゝて大晦日　　西林

大晦日一年力夢はゝ見よりけり　　林子

深雪を撫ぶむ力や大こゝろ　　湖川

大晦日のゝ年定力端所　　圭原

年力暮

花見見電見盃一ゝ年の暮　　春路

元朝より年はく春やゝ年のゝ光　　吐玉

春彩の業花茅ゝ岸一の雪　　夷川

整法ゝ傾法傳一年力ゝれ　　雪振

彩年

彩年や雪し星の流りり　　西竹

紅葉や鹿鳴と酒つくしける　赤破

中くに寺や掃集むる市の塵　李秋

紅葉や生駒人の聾うる　鶴又

春を待

春さむや蛍火の花咲出る　梅明

さむ待や雪掃う山もさむき　玉祈

春待や厩より出る馬の息　湛水

さむ待や寺にて墨を求む　蓼雪

寺の春待

酒酔くに歌ひ明るうの寺の春　青雨

寺のうれ掃屋より茶ひいるうの　鶴明

春ぬ待や梅の蕾や雪一点　市明

新酒ひ点よりて山里の寺のうれ　春城

寺内の春

暁方弓張月も雪一のうち　澄水

寺のうちの春を国や梅はさき　春江

序抄

[illegible]

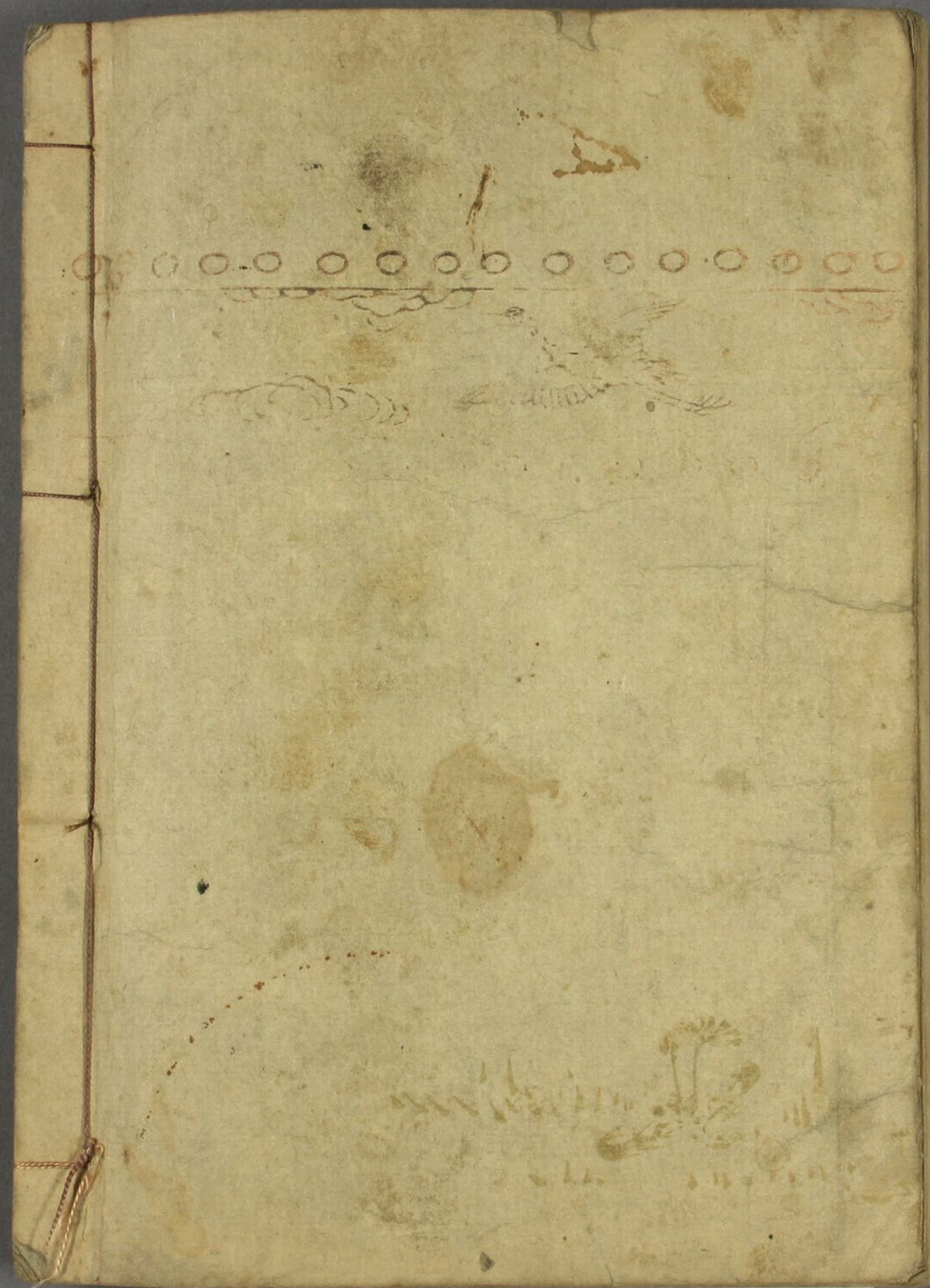
[illegible]

[illegible]

杉雲子

この一かつぷ世い

帳の書 錄 のもの

[illegible]

書肆 一柳堂
彫工 [illegible]